

けんこう

岐阜県総合医療センターの理念

岐阜県の皆様方に信頼され、患者様本位の安全で良質な全人的医療を提供します。

岐阜県総合医療センターの基本方針

- 1) 岐阜県の基幹病院として急性期を中心とした医療を担当します。
- 2) 科学的根拠に基づく医療の提供と医療安全に努めます。
- 3) 必要な医療情報を広く公開し、医療の信頼性を確保します。
- 4) 地域の医療機関や福祉施設との連携を重視します。
- 5) 迅速かつ確実な医療とともに、効率的な病院運営に努めます。
- 6) 医学的知識、医療技術の研鑽に努め、医学や医療の進歩に寄与します。

けんこう 平成28年春号をお届けします。
さて、皆さまは「地域医療構想」という政府が進めようとしている医療改革をご存知でしょうか？これから



ご挨拶
岐阜県総合医療センター
理事長兼院長
滝谷 博志

日本が直面する大きな課題とされています。高齢者が増加し医療、介護需要が増加する一方、高齢者を支える世代となる15歳から64歳の生産年齢人口は減り続けるため、国民が将来にわたって持続的に医療、介護を受けられるようにするには限りある資源を効率的かつ効果的に使う必要があると政府は考えていました。

こうした問題に対応するために、平成26年6月に「地域における医療および介護の総合的な確保を推進するための関係法律の整備等に関する法律」が制定されました。この法律のもとで、効率的で質の高い医療提供体制を作るとともに地域包括ケアシステムを構築して地域における医療と介護の総合的な確保を目指す「地域医療構想」を進めていくことになりました。

ここで言う地域包括ケアシステムとは、医療機関から介護施設そして在宅へと切れ目のないケアを地域で提供できる体制を指しています。この構想では、医療機関は高度急性期、急性期、回復期、慢性期といったそれぞれの病状に応じた四つの病床機能を明確にすることが求められています。さらに日本は諸外国と比

べて急性期の病床が多く、回復期、慢性期への病床機能の転換が求められています。こうした流れの中でわれわれ岐阜県総合医療センターにはどのような病床機能が求められるのでしょうか？ 答えは一つしかありません。

それはこれまでと同様に、今後も岐阜県総合医療センターは岐阜地域はもちろんのこと岐阜県全体の高度急性期、急性期医療を担う基幹病院として機能していかなければなりません。そのためには地域包括ケアシステムが構築されていく中で、当センターは地域の回復期、慢性期の病院と今まで以上に機能分化と連携を強めていく必要があります。このようになりま

うに日本の医療体制が変わっていくこととなりますので、県民の皆さんに強めています。このように日本は、当センターで急性期の治療を終えられて直接自宅へ退院することができない場合には、症状に応じて回復期あるいは慢性期の病院へ転院していくいただくことにご理解をいただきたいと思つております。こうした病院間の連携を図ることで、岐阜県総合医療センターは更に多くの新たな患者さんの受け入れが可能となり、当センターの機能を十二分に発揮でき



新棟の竣工について

平成24年度から整備を進めてきました岐阜県総合医療センター新棟が今回、竣工を迎えることとなりました。

これまで岐阜県には小児医療を包括的に提供する子ども病院的な医療機関がなく、そのような中で、県と当センターが連携し新たな新棟を建設することとなりました。その新棟は「岐阜県地域医療再生計画」に基づいて重症心身障がい児のための入所機能を整備すると共に、本館から小児科系診療科を移転・増室するなど、当センターがこれまでにも増して岐阜県の小児医療の中核病院としての役割を果たすことができるよう、小児医療分野の専門性の高い診察・検査・治療を行うための機能を持った建物として建設されたものです。

建設に当たりましては、

平成23年度に基本計画を策定、

平成24年度に基本設計・実施設計を行い、

平成25年10月から平成27年12月にかけて本体建設工事を行いました。

新棟の概要としましては

1階は障がい児を診察するための小児療育内科診察室を新設しました。

また、小児の診療のための撮像機器（MR・CT）を新設します。

MRは3.0テスラを導入し、従来よりもきれいな画像を得ることができ、より精密な診断が可能になります。CTは 2×128 列を導入し、従来よりも更なる低被ばくと短時間での検査が可能になります。

さらに当センターには院内保育所「こばと」がありました。病気の子供には対応していなかったため、こちらに病児・病後児のための保育室「バンビ」を新設しました。

2階は小児科系外来を本館から移転し、外来患者の増加に対応するため診察室を7室から10室に拡充します。

3、4階は重症心身障がい児施設「すこやか」（病床30床）を新設します。

これまで岐阜県内には、常時濃厚な医療的支援が必要な重症心身障がい児が入所できる医療機関が、国立病院機構長良医療センターと、県立の希望が丘こども医療福祉センターしかなく、空床の状況や障がいの重症度等によっては、入所待ちの待機が生じたり、県外の医療機関に入所せざるをえない場合がありました。

このため、県と当センターが連携し、岐阜県内の周産期・小児医療分野の拠点機能が集積している当センターに重症心身障害児入所施設を整備することになったものです。

「すこやか」の整備により、現在、当センターが有する総合周産期母子医療センターや高水準の小児医療を提供する体制との連携により、障がい分野と、小児医療・周産期医療分野の切れ目ない医療・療育体制の構築を図ることができます。

「すこやか」はこの3月から開所しますが、当面は3階部分から供用を開始する予定です。

5階は外来化学療法センターを本館から移転し、患者の増加への対応と治療環境の改善を図るために、外来抗がん剤治療を行う治療室を14床から20床へ拡充を行います。

6階は既存棟で不足している会議室、更衣室、仮眠室等を設置します。

これまで、岐阜県総合医療センターは地域の基幹病院として、急性期の病院としての役割を果たすための努力をして参りましたが、今後はそれに加え、子どものための医療の拠点としての機能をいっそう充実させていきます。

なお、新棟の愛称は「すこやか棟」に決まりましたので、これからも岐阜県総合医療センターの運営にご支援、ご協力をよろしくお願いします。

フロアマップ

新棟

7 F : 機械室
6 F : 管理部門（医師その他スタッフ用入室）
5 F : 外来化学療法センター（14床→20床 移転増床） ※外来抗がん剤治療の点滴治療室を移転のうえ拡張し、化 学療法の外来抗がん剤治療を担う。
4 F 障がい児病棟（病室16床）
3 F 障がい児病棟（病室14床） 重症心身障がい児施設 「すこやか」 (医療型障害児入所施設) 30床 新設
2 F 小児科外来診察室 小児科外来診療の拠点 診察室の増室 (7室→10室)
1 F MR・CT検査室 小児療育内科診察室 病児・病後児保育施設 専門外来 小児用の検査機能の整備 新設 小児療育内科診察室（障がい児 診察）の整備 新設

位置





岐阜県総合医療センターのロゴマークを制定しました

目的

職員の連帯感の醸成と、患者さんにより一層親しみをもつていただくことを目的に、岐阜県総合医療センターのマークを制定しました。

選定について

デザイン案は一般公募による550作品から、以下の応募者の作品に決定しました。

宝谷 隆博 様 (福岡市)

コンセプト

岐阜県と総合（General）のイニシャル「G」をモチーフとしています。3つの円弧は「医療従事者」「患者」「地域の医療機関」との信頼関係を意味し、円が安全で良質な全人的医療の提供を象徴しています。橙色は医療に対する情熱、緑色は再生、薄青色は安全・安心、濃青は新しい医療の創造をイメージしています。

デザイン



地方独立行政法人
岐阜県総合医療センター

Gifu Prefectural General Medical Center



MRI装置(MR)

当センターに2016年1月より東海地区では1号機となる最新鋭の3T（テスラ）MRI装置（MR）＝磁気共鳴画像装置が導入されました。これまでの高磁場1.5T装置の倍の磁場強度があります。

たとえば、従来、30分かかっていた頭部の検査が15分程度できるなど時間が短縮され、患者様への負担が小さくなります。また、本体部の長さもこれまでより短くなり、頭部や頸部（けいぶ）以外の検査では足から装置に入って検査ができるなど、圧迫感もより少なくなります。



最新のアプリケーション機能も搭載されています。従来型の3T装置よりも画質が向上することから、頭部、腹部、心臓、関節など幅広い領域の疾患においてより正確で詳細な画像診断が可能になります。特に頭部領域では、高画質の画像で脳内の小さな変化も読み取ることができ、造影剤を使用せずに脳血管内の血流を解析するソフトも導入されました。これまで腎機能の問題で造影剤検査が難しい患者様にとっては朗報です。血流解析のソフトも搭載されており、脳動脈瘤や大動脈解離の血行動態を可視化することもできます。また動きを補正するソフトも搭載され、従来は検査が難しかった小児やご高齢の患者様などにも幅広く対応できるようになりました。

順次、患者様の検査を開始しました。
多少、騒音がありますが御理解いただき、質の高い検査ができるようにスタッフ一同、頑張りますので宜しくお願ひいたします。



看護部からのお知らせ

当医療センターでは、病気を抱えながら生活している患者さんを支援するために看護師による「看護外来」を行なっています。現在、6つの看護外来（CAPD、スキンケア、禁煙、糖尿病外来、メタボリックシンドローム予防看護、リンパ浮腫外来）があり、退院後の患者さんや地域の医療機関からの紹介のあった患者さんに対して生活指導を行っています。今回は、禁煙外来の活動について紹介します。

▶禁煙外来～タバコのないクリーンな生活を取り戻しましょう～

タバコの中にはニコチンやタールなどの有害物質が200種類以上あり、69種類以上の発がん性物質があり、遺伝子（DNA）に損傷（ダメージ）を与え死に至らせます。禁煙を一人行なっていくのは難しく、「ニコチン依存」と「習慣依存」の身体と精神2つの依存症があります。医師からイライラを抑えるニコチン置換療法（ニコチンパッチ）または、非ニコチン製剤（チャニピックス）による治療が行われます。

当院は禁煙外来の保険診療が行える施設の条件を満たしており、ニコチン依存症なら保険診察内で金銭的な負担が軽減され外来を受診出来ます。薬だけでなく、禁煙開始時のニコチン依存からくる禁断症状やストレスの緩和に対応し、看護師と共に一緒に行なっていきます。その結果3ヶ月の間に5回の禁煙外来受診後の86%の人が禁煙できている実績があります。

▶支援内容 ★患者さんと一緒に考えます！

- * 禁煙の妨げとなるものの探求、タバコを止められない理由、ニコチンの離脱症状や体重の増加、気分の落ち込みの有無について確認します。患者さんの個別性に合わせた方法と一緒に考えます。
- * 毎回、息に含まれる一酸化炭素濃度を測定します。酸素欠乏の状態からの回復を知ります。

▶禁煙することでの期待される効果

- * 喫煙所を探すための時間の削減
- * 病気になるかも知れないという不安の解消
- * 食事が美味しいくなる



<スモーカライザー：一酸化炭素濃度測定器>

こんにちは栄養管理部です

今日からはじめよう！おいしい適塩習慣

塩分は私たち人間にとってなくてはならない成分ですが、日本人は図のように目標よりも塩分2~4gを過剰に摂取しています。そこで今回からおいしく適正な塩分摂取に近づける簡単なコツを紹介していきます。

塩分摂取目標

健康な人	男性 8.0g未満/日
	女性 7.0g未満/日
疾患管理が必要な人	6.0g未満/日 (高血圧・糖尿病・心臓病・腎臓病など)

2015年日本人の平均塩分摂取量

男性 11.1g/日
女性 9.4g/日

目標よりも塩分2~4gも多い
(インスタントみそ汁1杯塩分2g)



第29回



シリーズ第1回 意外と簡単、うま味満点の『だし』をとりいれよう

私たちの味覚は塩味以外に甘味・酸味・苦味・うま味を感じることができます。そのうちうま味成分を豊富に含んでいるのが、料理の基本になる『だし』です。特に『だしパック』でとっただしは顆粒だしに比べ香りがよく、塩分もほとんど含まれていません。塩味を含む調味料を少なくしても『だし』のうま味と香りが味を引き立たせるため、まるで料亭のようなおいしい料理に仕上がります。

作り方は、煮出し麦茶の作り方と同じ!!

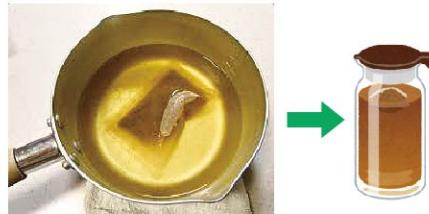
《用意するもの》

- ・だしパック
- ・水
- ・鍋
- ・麦茶用の保存容器

《作り方》

鍋に分量通りの水とだしパックをいれて火にかけて沸騰させて煮出す。

煮出しだしは
保存容器に入れて保存



※だしパックのメリット

- ①計量の手間・技術は必要なし
- ②昆布・干し椎茸など他のうまみ成分を含む商品もありバリエーション豊富
- ③スーパーの乾物売り場で購入できる
- ④だしは、冷蔵庫で2日間保存できます

適塩のみそ汁（塩分1.2g/杯）は
だし150mlにみそ小さじ1.5杯です



編集後記

広報紙「けんこう」第32号をお届けします。

今回は新棟の竣工、病院ロゴマークの制定など最新の話題をお届けしました。

また、取り上げてほしい情報などありましたら、お気軽にご意見をお寄せください。

岐阜県総合医療センター 広報委員会

〒500-8717 岐阜市野一色4丁目6番1号

TEL.058-246-1111 FAX.058-248-3805

Eメールアドレス info@ifu-hp.jp

ホームページアドレス http://www.gifu-hp.jp